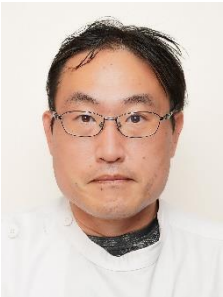
JR ほすぴたる

第２６８号
2023 年９月号
発行責任者　事務部長

よく見かける手足のコブ：皮下の滑液包炎（かつえきほうえん）



【整形外科　綿貫宗則】

1．滑液包炎とは

皮膚や腱が骨と擦れやすいところにある滑液包という普段ぺったんこの袋の中に液体がたまって風船状にふくらんだものを滑液包炎と言います。皮下にできる場合は肘や膝、足首など皮膚のすぐ下に骨が来ているところに出来ることが多いです。

2．滑液包炎の原因

何かにぶつけた後や、肘をついて作業するなど**慢性的な刺激**が原因になって出来ることがほとんどといわれています。まれに細菌が原因となる化膿性滑液包炎や、慢性関節リウマチや痛風などの慢性炎症が原因となるものもあります。

3．滑液包炎の症状

急性滑液包炎では痛みがあったり、皮膚がほんのりと赤くなって熱を持つことがあります。慢性滑液包炎では**痛みのないやや境界のはっきりしないぶよぶよした袋状のもの**を触れるだけのことが多いです。

4．滑液包炎の診断

まず、レントゲンで**骨や関節に異常がない**ことを確認します。強い関節の変形があれば関節液がもれてきている滑膜嚢腫などを疑います。**超音波検査**で中身が液体のがらんどうの袋状の物体が確認できれば滑液包炎の可能性が高くなります。最終的な診断は針を刺して中身の液体を吸引する試験穿刺で行います。透明黄色のさらさらした液体やすこし血液の混じった薄い赤色の液体が吸引されれば滑液包炎と診断できます。クリーム色の濁った液体が引けたときは化膿性滑液包炎や結晶誘発性炎症の可能性がでてくるので、血液検査や細菌培養を行います。ゼリー状のねばねばした液体が吸引されてきたときは、ガングリオンなど関節液に関連する疾患を考えます。全く何も引けてこないときは悪性腫瘍などの非常にまれですが重篤な病気の可能性もあるので MRI 検査や組織検査を行います。

5．滑液包炎の治療

吸引で滑液包炎と診断できればそのまま針を抜かずに、局所麻酔薬とステロイドを注入します。1か月ぐらいはステロイドの効果が持続するので、原因となるような物理的な刺激をさけてもらって経過を見ます。2、3回再発することが多いので再発したら同じ注射を繰り返します。さらに何度も再発する場合は、手術で袋を切除する（というより袋を縫いつぶす）場合もあります。**手術した場合の再発はほとんどない**と言われています。

6．まとめ

滑液包炎は針を刺して**水を抜けば診断も治療も同時に出来ます。なかなか治らないコブ**があるときはぜひ**整形外科にご相談**ください。

病院のお仕事紹介

地域医療連携室

〈地域医療連携室の主なお仕事内容〉

1.地域の医療機関からの紹介受診や転院の予約
2.地域の医療機関への受診や転院の予約
3. CT・MRI 等の検査予約
4.退院支援・調整(自宅への退院や転院・施設への入所相談など)
5.各種社会福祉制度(介護保険・福祉制度・介護サービス等)に関する相談、手続きのご案内
6.レスパイト入院の相談
7.その他、医療、福祉に関する様々な相談

★地域医療連携室の役割★

地域医療連携室は「患者さまを中心に自院、他院・福祉施設等、医療、福祉に関係する機関をつなぐ部署」です。地域の病院やクリニック・福祉施設や医療、福祉にかかわる各機関と連携し、患者さまが、適した医療、福祉サービスを受けることができるように、多くの機関を繋ぐ役割を担っています。看護師、MSW（医療ソーシャルワーカー）、事務職が配置されており、各々の専門分野の相談に応じ、援助させていただきます。

2022 年９月からは、看護師２名も加わり、医療・看護に関する相談の充実を図っております。ご相談がございましたらご遠慮なくお声がけください。

【 看護部 地域医療連携室師長　安斎 亜希子】

院内コンサート「summer concert～歌とピアノ～」

7 月 12 日

ピアニストの田原さえさん、ソプラノ歌手の磯村真綸さんをお迎えし、4 年ぶりの院内コンサートが開催されました。会場のエントランスホールは、美しいピアノの音色と、透き通るような歌声が響き大盛況のコンサートとなりました。

第１回 院内ボッチャ大会開催

7 月 19 日

院内職員による第 1 回ボッチャ大会が行われました。ナイスプレーやミラクルプレーが飛び出すなど盛り上がり、仕事終わりのボッチャを楽しみました。